

近頃なにやら騒がしく へらへらと揺れることあり
拙者が酒を少々飲み過ぎたせいかと思つておつたが
大高殿も確かに揺れておるといふ
聞くところによると 人が鉄のからくり物を使うて揺らしておると
これからさらに揺れ加ひひどくなるといふ者もある
何やら火の見櫓のよふな高山ところに人が住むとやら
そんな高山ところから見張られておつては
殿もやすやす眠れぬゆゑ御免ごうむりたく
拙者、剣術の腕には覚えあるゆゑ、と思つたが
現代はどういふ時代ではないと
大石殿に戒められてしもうた

お世話になつておる果敢香様も ほどほど困つておるとき
我ら以外にも多くのものが眠つており 密圍り果てている
現代といふところは 多くの民が大切に思つてくださる御心とは関係なく
お金持ちや金儲けのうまいものが 得をする世らしい
義理人情もなくなり お金さえあれば何とかなるものじやが
困つたことに拙者 お金儲けはぬぼろ弱い
浪人の身になればなほおさら山金もなし
ならば運試しで 奮つていでもと思つたところ
現代にも 宝くじなるものがあるとき
なんでも当たらずとも社会貢献に使つていただけたら
これは長きことと思ひ 仲間の浪士にも工面山ただき 四十七以賺入山たり候

この宝くじなるもので この地震を止めくださる事がけうと長山のじやが
人が起こしておる地震なれば おやぬいただき
我が殿が穏やかに眠れ 我々の楽しみでもある 眺めよき空を
いつまでもお守り山ただきたく 祈願山申し上げ候

刃なき種やかな世なるも 金欲に勝るものなきは これまた虚じ
それを戒めることの出来ぬ 義の心なき世は やがて滅びゆくが必定
なにぞぞ お上の御裁きをもつて乱心を戒め 義の心を取り戻して山ただきたく
重ねて祈願山申し上げ候

享成二十七年 正月

堀部安兵衛武庫